２０２２年度　自 己 評 価

２０２２年度　テーマ『つながって～今、わたしを生きる～』
①つながりの中で、自分らしくいられる保育環境
②つながりの中で、喜び合える家庭との連携
③つながりの中で、高め合う保育者集団

以下の項目ごとにの4段階
A・・・よく出来た
B…まあまあ出来た
C…あまり出来なかった
D…まったく出来なかった

評価項目		クラス	1学期の評価・反省		2学期の評価・反省		3学期の評価・反省	
①つながりの中で、自分らしくいられる保育環境								
1	安定した情緒の下で、自己を十分に発揮して生活できるよう、子ども一人ひとりの心身の状態を理解し、必要な対応を心掛けた。	0,1歳児	A	子どもに対して担当者を固定することで、信頼関係が深まり、小さな変化や成長に気付くことが出来た。子どもにとっても情緒の安定に繋がっていると感じる。	A	子どもの求めに応じて安心できる保育者が出来るだけ側にいられるように保育者間で連携を密にしたことで、子どもの安定や自己発揮に繋がったと感じる。	A	必要に応じて保育の振り返りをし保育者間で情報交換を行い個々の気持ちに寄り添えるように努めた。
		2,満3歳児	A	兄姉と一緒に過ごしたい子どもの気持ちを受けとめ、保育者同士で連携を取りながら柔軟に対応することで、一人ひとりが安心して過ごすことが出来た。	A	保育者同士の連携を密にしながら、兄弟が出来たことでの不安等にも配慮し、一人ひとりに寄り添って過ごすことが出来た。	A	一人ひとりの気持ちを受けとめながら、必要な援助をすることが出来た。特に、転園してきた子には、安心して過ごせるように丁寧な対応を心掛けた。
		3～5歳児	A	子どもの個性や友達関係等に合わせて、保育者同士連携しながら、必要な援助をすることが出来た。特に年少児は、新入園児だけではなく、進級児も環境の変化で不安になる子が多かったが、一人ひとりに合わせ寄り添うことで、信頼関係を築くことが出来た。	A	1学期に不安定だった子どもも、保育者や友だちとの関係が深まってきたこともあり、それぞれに自己表現できるようになった。保育者間で情報共有しながら、一人ひとりに合った対応を行う事が出来た。	A	それぞれの子どもに合わせたやり方で、保育者間で連携しながら丁寧に保育することが出来た。また子どもの心の動きや友だち関係にも気を配り、必要な対応を心掛けた。
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・わが子が園であったことを話してくれました。・・・・・子どもの世界もまあまあ大変なんだなあと思い微笑ましくなりました。こうやって小さい頃にもめても解決したり、「そういう子もいるんだな」とか少しずつ学んで行くのかなと思いました。普段園のことをあまり話さないので、事細かに話してくれて成長を感じました。								
・先生方は、いつも名前を沢山呼んでくれるなと思います。些細なことでも褒めてくれ、様々な出来事も経験として見守ってくれて本当に感謝しています。								
・年上のお兄さんがわが子を気に入ってくれて抱っこしたり触ったりするのですが、本人は嬉しくないようで泣いていたので心配です。ケガをしてしまうと不安なので見ていて頂きたいです。								
2	子どもの主体的な活動を促し、一人ひとりが意欲を持って遊べるように、援助や環境に配慮した。	0,1歳児	A	月齢に捉われずに、個々の思いに沿った活動内容を工夫しながら柔軟に対応することが出来た。	A	子ども同士のやりとりを側で見守ることで、より主体的な活動に繋げることができた。	A	保育者が関わり過ぎないようにする事で一人ひとりの遊びの意欲に繋げることができた。
		2,満3歳児	A	その日の子どもの様子に合わせて、活動を進めた事で、子ども達が意欲的に伸び伸びと遊ぶ事が出来た。	A	子どものやりたい事に合わせて遊べるよう配慮したことで、一人ひとりが好きな遊びを楽しむことが出来た。	A	子どもたち同士の関係性が深まり、保育者が介入しなくても楽しく遊べるようになってきたことを考慮し、側で見守る事で更に子ども主体の遊びに繋がった。
		3～5歳児	A	自主活動の時間を大事に、子どもたちの興味関心に合わせて環境を配慮することで、継続的に好きな遊びを深める事が出来た。2学期は、遊びの情報交換や意見交換を有効活用し、遊びがより深まり、広がるよう工夫していきたい。	A	1学期からの遊びを継続して楽しめるように配慮した事で、さらに遊びが深まったり広がったりした。また、こども同士の遊びの情報交換を行う事で、一人ひとりが遊びにより意欲的に向かうようになった。	A	たっぷりと自主活動の時間を確保する事で、同年齢だけではなく、異年齢での関りも深まって、互いに刺激を受け合って遊ぶことができた。また、子どもたちの遊びの情報共有を継続的に行い、子どもの遊びへの気持ちの高まりや、友達とのつながりを感じる事が出来た。
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・昨日は泥んこ遊びをして嬉しそうでした。汚れた服を家で洗いながら、きっと楽しかったんだろうなと思うとすごく幸せな気持ちになりました。これからもおもいきり服を汚して遊んで欲しいです。								
・園で覚えてきたクリスマスの歌を家でたくさん歌ってくれています。								

評価項目		クラス	1学期の評価・反省		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
3	子どもたちが、どこでどのような遊びをしているのか、またどのような様子で遊んでいるのかを把握し、子どもと楽しさや感動を分かち合う事を大切に過ごした。	0,1歳児	A	日々の小さな成長や気付いたこと等、保育者間で細かな情報共有をすることで、子どもの遊びをより深く理解し、楽しさや感動を分かち合う事が出来た。	A	興味や体力等に合わせて分かれて活動することが増えたが、保育者間で情報共有することが出来、子どもの姿を分かち合えた。	A	パートの先生達とも保育感を共有することに努め共に感動を分かち合うことができた。
		2,満3歳児	A	それぞれの保育者が見た事、感じた事を、日々伝え合いながら保育することで、全体を把握していく事が出来た。また子どもたちの個々の背景を知ることが出来、より子どもを理解し、心を通わせながら共に過ごすことが出来た。	A	今年は、公開保育もあったことで、他クラスの保育者達がどんな遊びを展開しているのかやその意図がわかり、積極的に聞いて参加する等共に楽しもうとする気持ちを持ちながら保育していくことが出来た。	A	子どもとの関わりをそれぞれの保育者が伝え合い、子どもたちの姿を共有することで、子どもの育ちを意識しながら過ごすことが出来た。
		3～5歳児	A	子どもと一緒に遊び込むことで気持ちを共有し、信頼関係を築くことが出来た。また、一日を振り返る機会を設ける事で、一人ひとりの好きな遊びや、思い等を感じたり考えたりすることが出来た。 今後は、どこの遊びにも属さずに過ごしている子にも、もっと目を向けていきたい。	A	様々な遊びが発展しており、1学期には積極的に遊びに入っていけなかった子も、保育者が配慮することで楽しんで参加できるようになった。 遊びの情報共有をする時間を設けることで、輪が広がり、遊びがより充実した為、今後もその時を大切にしていきたい。	A	子どもと一緒に遊び込む中で、共感したり、思いを通わせ合うだけでなく、2学期同様、遊びの情報交換の時間を通して、様々な子どもの、取り組んでいる遊びへの思いや、友達との関り等を知り、嬉しさやおもしろさを共感し合う事が出来た。

保護者からの意見・感想（連絡帳にて）
・あひる組のお泊り会の日、最後に保護者も一緒にさよならをした時、子ども達がみんなの前で楽しかったことをそれぞれに発表している姿を見られてとても良かったです。
・バス遠足、皆で一緒に行けたこと、子どもと一緒にバスに乗れたこと、大雨の中で子ども達の楽しむ姿や先生方の沢山の愛情や一生懸命な想い、共に楽しむ姿を感じ、感動するとともに胸が熱くなりました。

評価項目		クラス	1学期の評価・反省		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
4	子どもがやりたい事を形にし、遊びが深まったり、広がったりしていけるように意識して援助したり、働きかけるよう心掛けた。	0,1歳児	A	異年齢交流を通して、年上の子ども達から沢山の刺激を受け、一緒に楽しむことが出来た。その中で、特に興味を持った歌や体操などは、クラス内でも積極的に取り入れ、何度も楽しむ機会を持つことができた。	A	行事だけでなく、子どもたちの“やりたい”と思った瞬間を逃さず、すぐに取り入れて活動することが出来た。	A	クラスの枠に捉われず様々な保育者や子ども達とも触れ合うようにすることで遊びが広がった。
		2,満3歳児	A	特に外遊びが好きな子どもが多かった為、朝登園した子がすぐに園庭で遊べるようにしたことで、外遊びを長い時間楽しむことが出来た。また、室内で遊びたい子にも対応できるように、保育者間で連携をしながら、保育を行う事が出来た。	A	体操やダンス、ランニングなど大きいクラスが楽しんでいることに、保育者も子どもと一緒に楽しんで参加することが出来た。また、子ども達同士で考えながら遊びが展開されていく場面では余計な口出しはせずに見守り、子どもたちの雰囲気を大切にした。	A	子どもがやりたい事を十分に楽しむことが出来るよう、保育者間で連携をとりながら保育を行う事が出来た。子ども同士で遊びが広がっていく時には、子どもの考えややりとりを大切にし、保育者があまり介入しないようにしたことで、子どもたちが伸び伸びと友だちと遊ぶ楽しさを感じながら過ごせていた。
		3～5歳児	B	・保育者が子どもと一緒に遊ぶ中で、継続して遊べるような環境を配慮したり、遊びの広がりを意識しながら関わる事が出来た。また、子ども同士がお知らせし合う場を設けた事で、子ども同士で刺激し合ったり、遊びへの意欲の高まりを感じることが出来た。 ・保育者同士で子どもの遊びを情報交換出来ていたが、一つの遊びをいつも同じ保育者が進めていた為、様々な保育者が関わりながら、遊びを広げていけるように今後は工夫していきたい。	A	・保育者が一緒に遊び込む中で、楽しさや不思議さ等を共有したり、子どもの心の動きに気付いたりしながら、必要な援助をし、環境を作っていくことが出来た。また、保育者間でもアイディアを出し合いながら工夫することが出来た。 ・運動会や劇ごっこ等は、自主活動で楽しんでいた遊びから、皆で一緒に活動することの楽しさへと発展していけるよう、また、継続的に楽しめるよう様々な配慮と工夫をすることが出来た。	A	・長い時間をかけて遊びを継続して楽しむことが出来た。保育者が関わりながら進めた事で、子ども達の仲間同士の関りも深まり、互いに思いを伝え合いながら遊びを深めることが出来るようになってきた。 ・一つの遊びに様々な保育者が関わることで、いつでもやりたい時に遊べる環境を作り、遊びを広げたり深めたりすることが出来た。

保護者からの意見・感想（連絡帳にて）
・牛乳パックの犬の結婚式の様子の動画を見ました。とても本格的でした。子ども達のやりたいを実現させてくれる先生達に感謝です。
・どの先生を見ても、“子どもと一緒に”楽しんでいるのが伝わってきて“子どもが何をしたいのか”を常に一緒に考え行動してくれる園だと思います。

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
②つながりの中で、喜び合える家庭との連携								
1	必要連絡のみではなく、保護者と、子どもの様子や成長について積極的にコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気を心掛けた。	0,1歳児	A	お迎えの時間に、こちら側から、小さなエピソードでも積極的に伝えている事で、良好な関係を築けていると思う。	A	連絡帳で伝えきれないことを、送迎時に伝えるように心掛けた。	A	日中の子ども同士の関わりを伝えることで保護者同士も繋がりを持てるような雰囲気作りを心掛けた。
		2,満3歳児	A	送迎時等、保護者と顔を合わせる時には、その日に合った事を些細なことでも伝え、コミュニケーションをとることで、困ったことや心配がある時に、話しやすい環境づくりを心掛けた。	B	連絡帳でのやり取りや送迎時等でコミュニケーションをとるように心がけていたが、こちらからもっと意識したほうが良いと感じた事もあった為、今後気を付けていきたい。	B	・日ごろから積極的なやりとりを心掛けていたつもりだが、バス利用の保護者の方より、園での姿があまりわからないとの声があった為、意識をより高く持ってコミュニケーションを取っていきたい。
		3～5歳児	B	・直接話すだけでなく、連絡帳や電話を利用して積極的にコミュニケーションを取るよう心掛けた。バス利用で顔を合わせる機会の少ない方や、連絡帳でのやり取りが少ない方等、こちらからもっと働きかける必要があると感じた。	A	・連絡帳でのやり取りが充実した。バス利用や預かり保育等で、直接顔を合わせることが少ない保護者とは、特に積極的に電話などでもコミュニケーションを心掛けた。今後も、保護者との関りを大切にしていきたい。	B	・積極的に連絡帳や電話等でコミュニケーションを取るように意識していたつもりだったが、こちら側の意図が伝わっていない場面があり、やり取りが少ない家庭にもっとこちら側からの働きかけを持つべきだった。
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・忙しいのに、連絡帳を毎回長文で返して下さり有難うございます。子どもの様子、先生達とのやり取りをいつも楽しみにしています。このような交換日記的なコミュニケーションは、当たり前ではない事を知り、明星幼稚園は丁寧だと思いました。								
・先生方の連絡帳のお言葉から家では見せない一面や思わぬ成長を知り、びっくりしたり、笑わせて頂いたりととてもありがたかったです。								
・わが子がアザを作って帰ってきました。どのような状況でケガをしたのか、流れ等はすぐに教えて頂きたいです。								
2	心配や悩み等、保護者の思いに寄り添い、真摯に向き合うよう努めた。	0,1歳児	A	戸惑う事もあったが、保育者間で話し合い、保護者の気持ちに寄り添いながら一緒により良い方法を探っていくよう努める事が出来た。	B	こちら側の思いが先行しすぎて、伝わらないことがあった為、保護者の立場や状況などを考慮して伝えるべきだった。	A	子どもの成長にとって大切だと思うことはタイミングを見て慎重に言葉を選びながら伝えるように努めた。
		2,満3歳児	A	保護者の思いを聞いた時には、保育者間でも共有し、意見交換をしながら、同じ考えの下対応できるようにした。また、丁寧に子どもの様子を伝えたり、園でサポートできることはする等安心してもらえるような対応を心掛けた。	A	保護者の声を保育者間で共有し、良い方向へ向かうように保護者の気持ちに寄り添いながら対応するように努めた。	A	2歳児特有の心配や、悩みについて相談があったが、成長の一つとして肯定的に捉えていけるよう園での様子や保育者の考えを丁寧に話すことを意識した。
		3～5歳児	B	園での様子を伝えながら、保護者の思いに寄り添っていけるよう心掛けた。 共に成長を分かち合える時を持てたと思うが、向き合ってきたつもりでも、うまく伝わっていない事もあるので、引き続き、信頼関係を深めていけるように努力していきたい。	A	文字でのやり取りだけだと伝わりにくい事は、直接話すように心がけた。 トラブルやケガ等の際は、状況を丁寧に伝えるだけでなく、子どもの思いも伝えるようにする等、子ども同士の関係性や、成長を理解してもらえるよう努めていきたい。	A	お互いに考えや思いを分かち合う事が出来るように、必要に応じて、時間を作って話す場を設けることが出来た。また、その場限りにならないように、意識的にコミュニケーションを図るよう心掛けていきたい。
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・子どもの食事のアドバイスしてもらったように、家でもやってみるとストレスを感じることなくご飯を食べられるようになりました。子育ての大事なポイントを教えて下さりありがとうございました。								
・子どもの心配なことを話している時に、笑いながら対応された事が悲しい気持ちになりました。								

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
3	園の方針や考えを理解してもらえるよう、保護者との関わりの中で伝えていくよう心掛けた。	0,1歳児	B	新入児の保護者に対して説明不足があり、真意が伝わっていないところがあった。より丁寧に伝えていくよう心掛けたい。	A	保護者の方々が、園の方針を理解して下さるようになり、こちらの考えや真意が伝わり、信頼関係を築けている。	A	1人の判断で伝えず保育者間でよく吟味してから保護者に伝えるようにした。
		2,満3歳児	A	送迎時や懇談会等で、子どもの様子を踏まえながら、園の方針や考えを伝える機会を大切にした。	A	特に懇談会ではこちらの思いや園の方針等を伝えいるが、懇談に参加していない保護者にも伝えたいと思いつつも、同じようには伝えられないこともあった。連絡帳など折に触れて個々に伝えていくことを意識したい。	A	友だち同士のトラブルや、2歳児特有の発達の姿、その姿に対するこちらの関わり方などを具体的に話したり、保護者と共有したことをお便りにする等積極的に発信するようにした。
		3～5歳児	A	懇談会などでは、子どもの様子を伝えるだけではなく、保育者の思いや考え、園の方針などを伝える良い機会となった。また、心配をしている保護者には、園での遊びの様子を、動画で見せる事で安心に繋がっていた。同じことでも、一人ひとりの捉え方も違うので、個々への対応を今後も意識していきたい。	A	・面談や個々の保護者とのやり取り、クラス懇談等で、園の方針や保育者の思いを伝え、共に子どもの成長を分かち合う事が出来た。特に、保護者の保育参加後の懇談会では、同じ思いで話しを聞いたり、語ったりすることが出来、良い時を持てた。	A	子どもの遊びの様子や、子ども同士の関わり、トラブルについて等、園の方針や考え方を懇談会やブログ、お便り等で伝える事を心掛けてきた。
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・今回の遠足は、中止が妥当だったのではないでしょうか。大雨、強風の予報が出ている中での実施は子ども達、すずめ組の保護者にとっても負担が大きかったように思います。・・・・・・とはいえ、年長さん達は皆とても喜んでいましたし、娘の園でのお話も聞けて良かった部分も沢山ありました。特に先生達はあの大雨の中でも大変そうな表情を一切見せず、終始笑顔で子どもと関わって下さり、普段からの先生達の明るさや一生懸命さが伝わり改めて感謝の気持ちでいっぱいです。								
・懇談会では、先生方の考え方や他のパパやママの考え、見方がとても勉強になりました。クラスの子ども達の様子も知ることが出来、面白かったし、進級が楽しみです。								
・クリスマス礼拝に参加でき、来年ははと組さんのようにこんなに立派になれるかな？と思ったり、去年はひよこ組さんのようにこんなに小さかったんだなと、今の成長をより実感できました。								
4	まど・ブログ等の情報発信等で伝えられるように努めた。	0,1歳児	A	保護者の反応から、長文だと読みにくい事を感じたので、短い文章や写真を多く使う等、簡潔な表現方法を工夫した。	A	保護者にブログの記事を紹介することで、子どもの様子やこちらの真意が伝わりやすくなった。	A	より短いフレーズでこちらのねらいや思いを伝えるように努めた。
		2,満3歳児	A	まどやブログでは、写真を用いながら、エピソードを載せ、子ども達が主体的で自由に楽しむ姿を発信できた。	A	特にブログでは、その日あったことを連ねるだけではなく、伝えたいことを意識して書くように努めた。	A	子どもたちの様子を伝える中で、楽しんでいる遊びや歌を紹介すると、ブログを見た保護者から感想や家で楽しむ様子が聞け、コミュニケーションにも繋がった。
		3～5歳児	A	保育者それぞれの視点で、子どもたちの園での姿や関わりの姿を発信することが出来た。また、クラスに捉われず、様々な年齢の子ども達が共に育ち合っている姿も発信しようと、特に心掛けた。	A	ブログの感想を伝えてくださる保護者が多く、タイムリーな出来事や、保育者の視線を写真付きで発信していくことが出来良かった。また、Yotubeでは、園で子どもたちが楽しんでいる歌等を紹介できた。	A	Youtubeの配信で、讃美歌を紹介したことで、家庭でも楽しさを共有してもらう事が出来た。家庭からも、反響があり、園での子どもの様子を分かち合うきっかけになった。
保護者からの意見・感想（連絡帳にて）								
・ご飯を食べ終わった後に自分でお皿を重ねるようになってどこで覚えたんだろうと思っていましたが、ブログを見て納得しました。園で色々なことを身に着けてくれて助かります。								
・お泊り会の様子をブログやまどで伝えてくれたことで楽しんでいることが分かって安心できた。								
・ブログの写真を見て、子どもの楽しかった様子が伝わってきました。園での遊びは、家では味わえない良い刺激になっているようでありがたいです。								
・保育参加の動画を見て、とても楽しかったです。実家では、おじいちゃん、おばあちゃんや親戚等みんなで何度も繰り返し見て楽しみました。								

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
③つながりの中で、高め合う保育者集団								
1	他の職員とコミュニケーションを積極的に取り、人柄や考え方等互いに理解し合い、信頼感を深めるよう心掛けた。	0,1歳児	A	シフトの調整をし、子どもと離れて職員室で仕事をする時間を設ける事で、他のクラスの保育者とコミュニケーションが円滑になり、情報交換の機会も増えた。	B	互いに理解しようと努めていたが、お互いの状況や立場の違いから、うまく連携出来ない事もあった。	A	細かいことでも気付いたことを積極的に伝えるように努めた。
		2,満3歳児	A	保育者同士、情報交換を密に行い、個々への丁寧な対応を心掛けて保育することが出来た。	A	保育者間で共に子どもの成長を喜びながら保育することができた。 ミニ研修では他クラスの保育者と交わる中でその人の考え方や感じ方を知るよい機会となり、より信頼感を深めることが出来た。	A	クラス関係なく子どもの姿や成長を伝えあう事で、新たな気付きが得られ、自分とは異なる視点での捉え方等を知ることが出来た。話していく中で、互いに理解し合い、信頼を深めていくことにも繋がった。
		3～5歳児	A	日々、保育者同士が、お互いに子どもの姿や成長を伝え合い、分かち合うことが出来、それぞれに理解し合いながら共に保育することが出来た。	A	クラスに捉われず子どもの一人ひとりの成長を分かち合い、同じ思いで保育することが出来た。関わった子どものエピソードを伝え合ったりすることで、保育者同士の思いを知り合い、信頼関係を深める関りが出来た。	A	保育者同士、信頼し合いながら、連携して保育をすることが出来た。得た子どもの情報をもとに、他のクラスの保育者も積極的に子どもと関わり、その様子をまた保育者同士で共有しながら、皆で成長を分かち合う事が出来た。
2	「全職員で全園児を見る」という方針の下、積極的な発信や意見交換など、職員間で連携しながら、情報共有に努めた。	0,1歳児	A	フリーの保育者が、様々なクラスに入り保育することで、他クラスの情報を共有する良い機会となった。	B	互いに情報共有をすることに努め、クラス内だけで話を勧めようとせず、一緒に考えていきたい。	A	個々の小さなエピソードを伝えたり安全面について気が付いたことを積極的に発信しようと努めた。
		2,満3歳児	A	幼児クラスから発信された遊びや活動を保育者も意識して過ごし、その遊びを共有できるよう積極的に聞くようにしていた。	A	連携をとりながら、他クラスですずめ組の子どもを受け入れてもらうことで、その保育者と子どもの成長を分かち合うことが出来た。	A	他クラスとの交流では保育者間で意見共有や意見交換し合いながら、連携て保育を行う事が出来た。
		3～5歳児	A	他のクラスとの交わりを多くしているので、常に連携したり、情報交換をしながら過ごすように心がけた。会議でも、互いの思いを理解し合ったり、問題を皆で解決できるように話し合う事を大切にした。	A	小さなことでも報告、連絡、相談する事の重要性を感じながら、互いに連携することが出来た。今後も、コミュニケーションを取りながら、円滑に保育をしていくことが出来るよう努めたい。	A	情報共有は、会議での伝達に加え、LineWorksを活用し、タイムリーに必要事項を全職員で共有することが出来た。皆が同じ情報を同じタイミングで知る事で、意見交換をしながら、次の保育へつなげていくことが出来た。

保護者からの意見・感想（連絡帳にて）
・入園した頃から、どのクラスの先生も給食さんも職員さんもわが子の名前を覚えてくれて、違うクラスの先生も「今日〇〇こうでしたよ」と話してくれ、本当に園がひとつの家族のようで安心して通わせることが出来ました。
・担任以外の先生が連絡帳を書いてくれるなんて、驚きました。

評価項目		クラス	1学期の評価		2学期の反省評価		3学期の反省評価	
3	分掌に当たっている仕事を担当者同士で話し合い、常に意識しながら管理・実行・周りへの発信等、責任を持って励んだ。	0,1歳児	B	分掌担当者以外の人も少しずつ気付いた事を発信するようになってきた。	B	幼児グループの保育者と担当することで気付かされることがあり、良かった。しかし、忙しくなると、分掌の仕事は後回しになってしまう事があった。	B	なかなか保育から抜けられず幼児クラスの保育者に頼ることが増えてしまったので時間調整をうまくできるようにしていきたい。
		2,満3歳児	B	より良くなるよう出来るところは話し合い、改善しながら進めてきたものもあるが、忙しさの中で気になりつつも出来なかったものもあった。	B	決まった人がやっていたことも多かったが、少しずつ、それぞれ気付いた人が発信したり、意識するようになってきた。	B	会議やホワイトボードを使って担当者が積極的に発信することによって、全員に認知して意識していけるようにした。しかし、担当者に任せきりになってしまうこともあった。
		3～5歳児	B	分掌の任務に積極的に取り組んだり、それ以外の事も気づいたことを発信出来た職員もいたが、個々の意識の差が大きかった。互いに声を掛け合いながら、皆のこととして捉えていけるようにしたい。	B	分掌担当者は、考えたり呼びかけたりと意識して働きかけていたが、担当者に任せすぎることもあった為、今後は、職員皆で意識を高められるように努めていきたい。	B	自分の分掌の仕事に責任を持って、積極的に行う者と、気が付いてから行なう者との差が大きかった。園内の環境をより良くするために、それぞれが意識して過ごし、発信していけるように努めていきたい。
4	学ぶ必要性を意識しつつ、積極的に取り組み、学びを他の職印と共有しながら深めることが出来た。（自主学習・園内研・外部研・他の職員の研修報告等）	0,1歳児	A	エピソード記録や研修報告書等を読んだ感想を、何気ない会話の中で取り入れるよう心掛けた。	A	シフトを調整しながら複数で外部の研修に参加したことで、研修後学びを深め合う事ができた。	B	積極的に学ぶことはできたと思うが、共有したり保育に反映させたりすることに難しさを感じた。
		2,満3歳児	A	オンライン研修や聖書研究、ミニ研等、シフト調整をしながら積極的に参加し、学びを深める事が出来た。また、エピソード記録へ保育者達がコメントを書き込むようにしたことで、今まで聞くことが出来なかった他の職員の意見を知る良い機会となった。	B	エピソード記録の回覧やコメント書きをすることで、よい学びに繋がったが、他クラスの保育者とも普段の会話の中で積極的に感想などを話し分かち合っていきたい。	A	外部研修等で学んだことを、日常会話の中で話して共有することが出来、その学びを保育に生かしていくことが出来た。
		3～5歳児	B	研修報告を回覧することで、皆で学びの共有が出来た。読んで終わりのことが多かったので、感想を伝え合ったり、学びを自分なりに深められるようにしていきたい。	A	・オンラインの外部研修が充実していた為、積極的に参加し、学びを共有することが出来た。 ・園内研修では、ミニ研やエピソード記録などで、保育への思いを互いに共有し、学びに繋げることが出来た。	A	・少人数グループで行ったミニ研修では、深めた事を発表し合うことで、皆で学びを共有することが出来た。また、聖書研究等の園内研でも、それぞれの保育者がどのような考えでいるのかを分かち合う機会となった。

●総合評価●

今年度は、『つながって～今、わたしを生きる～』というテーマのもと、3つの課題目標を立てて保育を行ってきた。それぞれの目標を振り返り、成果と課題を以下にまとめる。

①つながりの中で、自分らしくいられる保育環境
成果：特に自主活動の時間が充実するよう、子どもの興味関心に合わせ、様々な遊びを深め発展していくことが出来た1年だった。子どもたちは、思う存分好きな遊びを楽しむことに加え、クラスや全体の場で、自分の遊びを紹介したり、思いを発表する事で、友だちと遊びを共有するきっかけになったり、自分なりの思いをしっかりと持って遊びに向かうようになったと感じる。また、9月に行われた公開保育は、自園の保育についてや、これまでの子ども達の活動の様子などを話し合い、資料にまとめることで、改めて保育の中で大切にしたい事を確認できた良い機会となった。他園の保育者と意見交換をすることにより、保育者達の子どもの遊びの見取り方や関り方、保育環境をどうしていくのかということへの意識がより高まったことを感じる。 **課題：**子どもの声に耳を傾け、保育者としてどう関わるのか、子どもの主体的な遊びをどのように支え、発展していく働きかけをしていくのか等、保育者一人ひとりが、目の前の子どもから学び続け、子どもの思いを大切にしながら、成長を促していける丁寧な保育を目指していきたい。
②つながりの中で、喜び合える家庭との連携
成果：コロナ感染による制限が緩められたことにより、懇談会や保育参加等、保護者を招き園での子どもの様子を知らせたり、園の方針や、保育者の思いを伝えられる機会が多く持てた。実際に顔を合わせて話をすることで、子どもの成長を分かち合い、互いに喜び合う事ができた。また、子育て支援は、地域開放(わんぱく広場)に来た未就園児の保護者同士が会話をしたり、園児との関り等、良い触れ合いの場となったことを感じる。また、子育ての相談や、幼稚園や保育園入園について等の相談を受けることもあり、子育て支援の必要性を感じたた。 **課題：**引き続き、保護者と子どもの成長を分かち合える場を作ること。そして、一人ひとりの保護者との普段からのコミュニケーションを大切にしていきたい。
③つながりの中で、高め合う保育者集団
成果：保育環境や、子どもの遊びについて、語り合い学び合う時を持つことで、保育者一人ひとりの意識がより高まった。また、外部研修もオンラインなどで、自園で保育者が数名一緒に参加することで、学びを共有し、意見交換をしたり、保育に生かしたりと保育者同士で学び高め合う事が出来たと感じている。 **課題：**分掌の役割は、保育者によって意識の違いが見られた事が課題となった。年度毎に当番が変わることで、それぞれの役割や働きがどんなものであるかを知り、その働きによって、園全体が支えられていることを自覚し、互いに支え合ったり、感謝し合いながら役割が担えるような関係性作りを目指していきたい。そして、それぞれの個性が発揮され、得意なことを活かしながら生き生きと働ける職場にしていきたい。

2023年度のテーマ　『ともにつむぎ出す～希望の中で～』

①子どもの声が大切にされる保育

②共感し合える家庭との繋がり

③多様性を尊重し合う保育者集団